

宇宙の闇はあまりに深く、そして、その死の世界に言葉にならないほど美しい地球はあるんです。

「宇宙の～深く、」と「その死の～あるんです。」が、「そして、」で結ばれています。それぞれを文として、ひとつひとつ訳出して、最後に **and** で結ぼうと思います。

## A. 宇宙の闇はあまりに深く、

---

まずは述語です。「深く」をキーに、

### ▪ S is deep 「Sは深い」

が思い浮かびやすいです。が、それに合わせ場合、Sに **darkness** 「闇」が入りそうなのですが、コロケーション的に不安です。「海」や「湖」には物理的な深さがあるので、安心して使えそうですが、「闇」の場合は少し比喩的な深さになってしまいます。調べてみると、実際のところは、使えるようです。が、練習のために、別の切り口で攻めていきます。

「宇宙の闇はあまりにも深い」のイメージを浮かべてみてください。何が浮かんできましたか？もしかしたら「闇」の部分がヒントになっているかもしれませんが、【漆黒】の状態が浮かびませんでしたか？これを述語にした、

### ▪ S is dark 「Sは暗い」

を使ってみようと思います。

#### (1) S is dark

【暗い色がついているもの】である S は「宇宙」ですね。the universe を使います。「あまりに」は【行きすぎて困っている】わけではないので too ではなく、【強調】と捉え、really を dark の左側に置くことにしました。

#### (2) the universe is very dark

## **B. その死の世界に言葉にならないほど美しい地球はあるんです。**

---

述語の中心である「あるんです」から始めます。

### **(a) 地球はあるんです。**

---

is でも lie でもいいのですが、今回は、

#### ▪ S exist 「Sは存在する」

を使うことにしました。【**存在する主体**】である S は「地球」です。宇宙がテーマで、【**天体**】としている文脈では大文字を使う **the Earth**、「太陽が昇った」のように、宇宙が意識されていない場合は、小文字で始める **the earth**。今回は宇宙が前提なので、**the Earth** を選び、S に入れます。

### **(3) the Earth exists**

## **その死の世界に**

【**存在する**】場所を表します。「世界に」とあれば **in the world** にしたいところですが、**the world** は、宇宙を含むかどうか、不安になってしまいました。**in space** 「**空間に**」を使うことにしました。**He lives in New York.**のように、**live** などの【**存在**】が前面に出ている表現は、後ろに場所表現を置くのが標準ですよね。なので、**(2) the universe is very dark** の後ろに直接置くことにします。

### **(4) the Earth exists in space**

## (b) 死の

---

単純には **dead** です。が、**dead space** という組み合わせに自信がありませんでした。とはいえ他の表現がなかなか浮かびません。こういった時に便利なのが、**できるだけ(S)(V)で処理する**という技術です。そうすると、許容される英文を作りやすいというメリットがあります。なので、ここでは、**(S)(V)**を使った**関係詞(S)(V)**という形で、内容をもっと精密にすることにしました。

ここで書かれている「死の世界」は、**【地獄】**とかではなく、**【なにもない】**というニュアンスです。**【なにもない】**というイメージが難しいかもしれませんが、ここでは、**逆のイメージを英語にして、最後に否定文で処理をする**という技術を使います。逆のイメージは、**【なにかいる】**です。そうすると、**live** や **survive** という表現が浮かんできました。ここでは、

### ▪ S survive 「Sは生き残る」

を利用します。**【生き残っている主体】**を表す **S** に入るものは**【生物】**です。**living things** や **organisms** を使ってもよかったです。ここでは **life** を使います。

## (5) life survives

これを否定文にします。

## (6) no life survives

さらに、**【いつもいない】**というだけではないので、現在形だとしっくりきません。**【それを実現するのが難しい】**というイメージを出すために **can** を追加しました。この発想は少し難しかったかもしれません。

## (7) no life can survive

最後に関係詞節にするために **where** を直前に置きます。

(8) **where the Earth exists in space where no life can survive**

(c) **言葉にならないほど美しい**

---

これは、**the Earth** を修飾する表現です。いろいろな修飾表現が考えられますが、ここでは(S)(V)という文の形で表して、関係詞節を作りたいと思います。

日本語を参考に、述語は「美しい」にしてみます。

▪ **S is beautiful 「S は美しい」**

を利用します。【美しいと感じさせる主体】が入る **S** は、「言葉にならないほど美しい」自体が修飾する名詞、**the Earth** です。先行詞と同じものを関係詞節中で表現する場合、関係詞を使います。**which** を入れません。

(9) **which is beautiful**

ここで残っているのが「言葉にならない程」です。【程度】を表したい場合、いわゆる、**so ... that (S)(V)構文**を使うなど、いろんな方法があると思いますが、ここでは、

▪ **beyond description 「言葉では言い表せないほど」**

をそのまま使います。この表現は、修飾する表現(ここでは **beautiful**)の直後に置くので、次のようになります。

(10) which is beautiful beyond description

(d) (a) + (b) + (c)

---

(4)の space の後ろに関係詞節である(7)を置きます。

(11) the Earth exists in space where no life can survive

また、関係詞節である(10)を **the Earth** に修飾させます。「言葉にならないほど美しい」が「地球」を修飾しますが、とりたてて、「言葉にならないほど美しい」わけではない「地球」が存在するわけではありません。つまり【ほかに】地球があるわけではありません。【ほかのものと区別しているわけではない】ときには、関係詞の非制限用法を用いるので、前後をカンマで挟んで、**the Earth** の後ろに置きます。

(12) the Earth, which is beautiful beyond description, exists in space where no life can survive

**C. A. + B.**

---

予定通り、A で出来上がった(1) **the universe is very dark** と B で出来上がった(11) **the Earth, which is beautiful beyond description, exists in space where no life can survive** を , and でつなげます。

(13) **The universe is very dark, and the Earth, which is beautiful beyond description, exists in space where no life can survive.**

**Model Answer**

The universe is completely dark, and the Earth, which is beautiful beyond description, exists in a world where no life can survive.